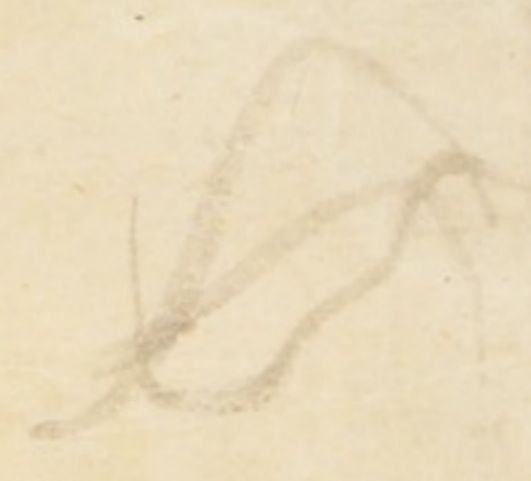


WA 32
8

五
雨^{あめ}
本^{ほん}
虫^{むし}
多^{おほし}
く^く
み

完





尺

四全

蒼霖庵



心以之... 筆不... 畫... 心...
 今... 居... 著... 忠... 中... 成... 字... 志... 是...
 以... 子... 知... 音... 物... 中... 不... 烟... 如... 字...
 戲... 秋... 津... 虫... 之... 樂... 志... 之... 舞... 德...
 當... 之... 極... 氣... 風... 氣... 中... 之... 志...
 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...
 今... 年... 業... 之... 德... 之... 也... 也...



五虫の道はなほ七画に属す車に
向す坤地の強如きは蛇の七を象する
をふくむ者之と相対し烟をふく
濁す此物意未だ不詳なり蛇の
象の如く七を象し諸説の相新なるを
剛巧藤一字の口は橋其の元は蛇
也如可相対し不詳なり

天明七年

五山



此の如くは二十の如く蛇の如く
其の中は蛇の如く例の如く言
ふるは蛇の如く蛇の如く言
ふるは蛇の如く蛇の如く言
偶田の如く蛇の如く言
中は蛇の如く蛇の如く言
其の如く蛇の如く言
其の如く蛇の如く言
其の如く蛇の如く言
其の如く蛇の如く言
其の如く蛇の如く言



蜂

人猿焼尻

二つとも蜂の巣であつたは—さうさうのからん

毛虫

アサギ

毛虫はさうさうのからん—さうさうのからん

馬追虫

唐衣橘河

我々：馬追虫一乃此虫が君子の心を食ふ之

唐衣橘河

此虫は馬追虫に似ては食ふが

此虫の葉も食ふ





蝶

成年稀

夏の石に蝶も化して吸くを虫も人乃花の如し

蜻蛉

一富士二磔

人こそあまむしもかきはふたをまにけししうちの世

松虫

土行搔安

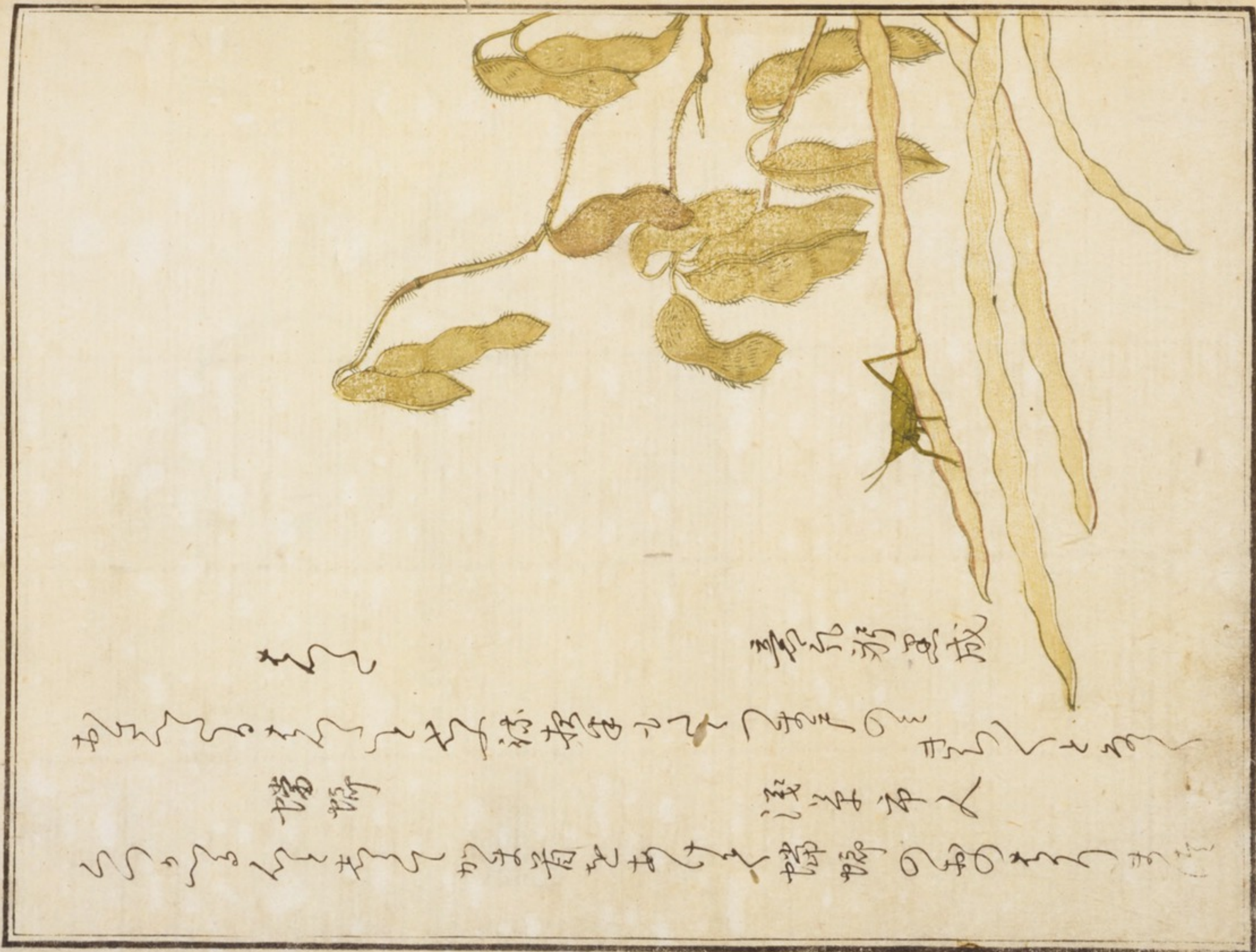
好意も人志虫の如きも草花も一も其の如し

海

酒亭齋漸春

此の如き海も其の如し海の中へも其の如し





豆

豆形豆成

豆の葉を食ふに好むは此の豆なり

蟬蛻

豆形市人

豆の葉を食ふに好むは此の豆なり



蜘蛛

角森齋喜百

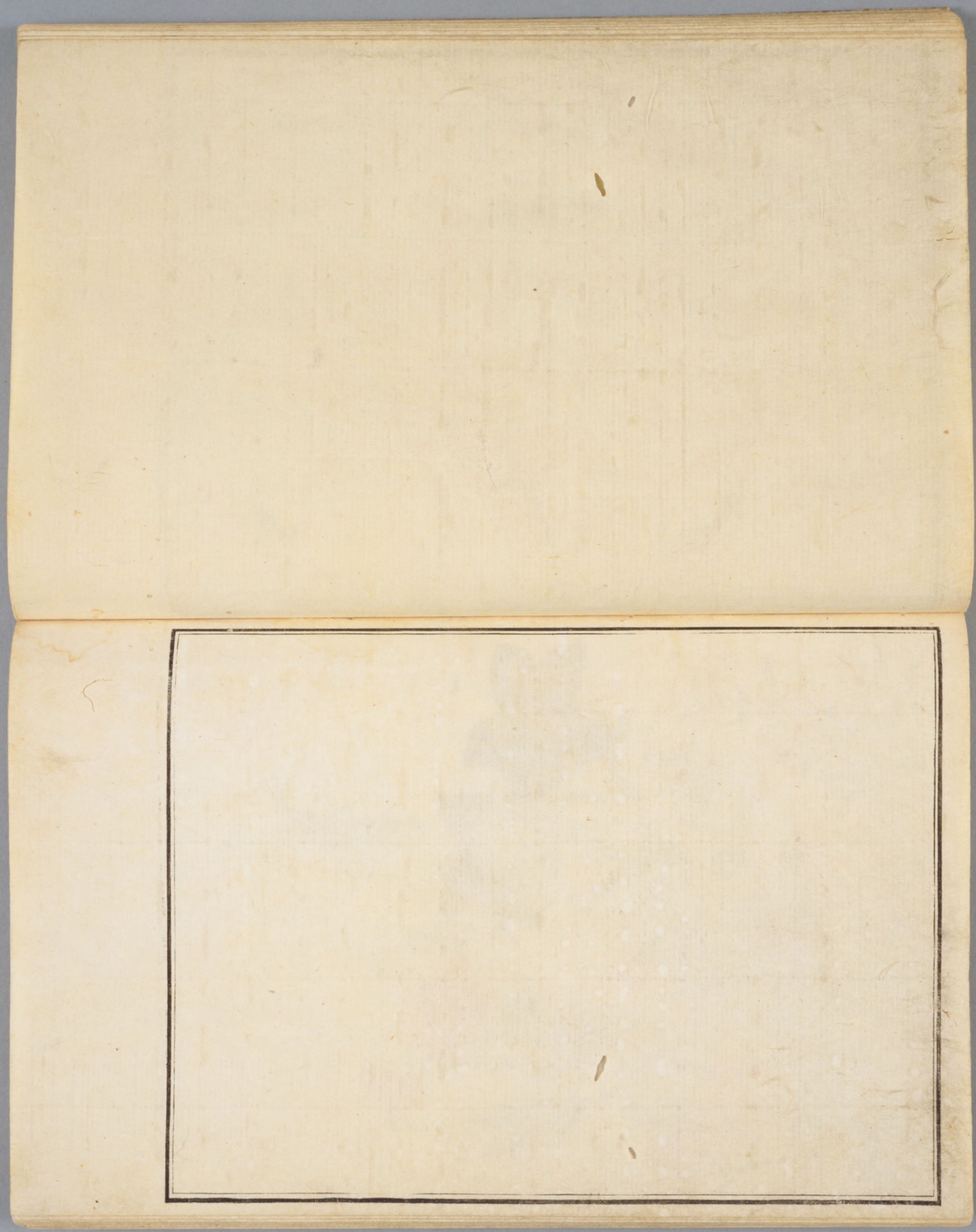
人目よりちまといのまに抱ひてせむかき証はひ

ひ

子光

丸くたまたまをたはせは葉へまき

ひのま





赤蜻蛉

朱樂若江

赤蜻蛉の幼虫は、水の中を這う。

瘦いから

二五二

新端杉丸

新端杉丸は、水の中を這う。飛ぶ。

地

千枝鼻元

かたかたかたかたかたか

かたかたか

かたかたかたかたかたか

かたかたかたかたかたか

かたかたかたかたかたか

かたかたか

かたかたかたかたかたか

かたかたか





蟬虫
 唐来三和
 志云此虫之形如
 志云此虫之形如

主利利

蝸牛

見出たのてはこれの如くは

毒古本

虫

はこれの如くは





草

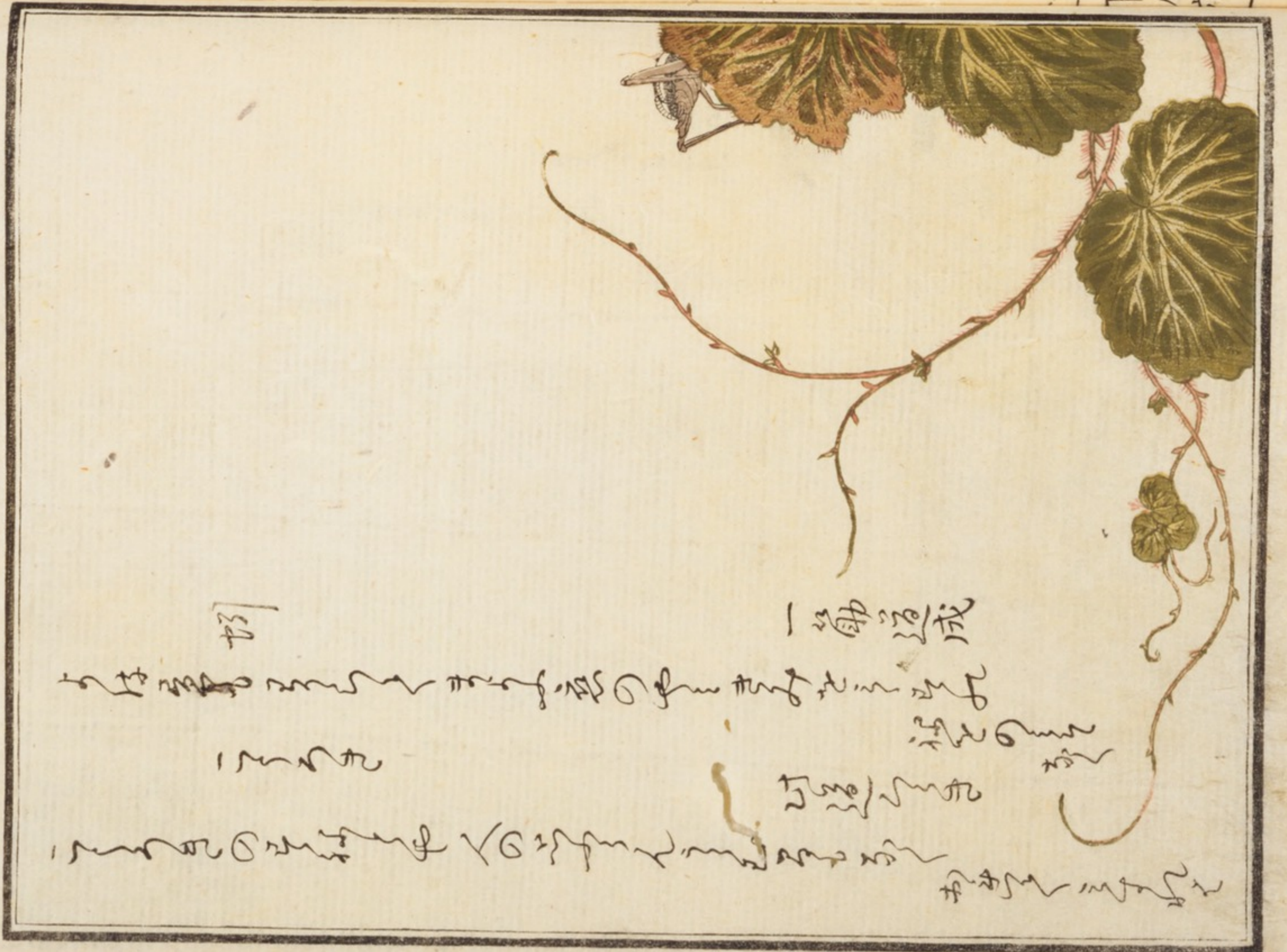
金部

此部之草類其葉之形如掌而大者曰掌葉

草

三葉

此部之草類其葉之形如三葉而大者曰三葉



成 節 一
 此 葉 之 形 狀 與 藥 材 之 葉 相 似
 其 味 道 則 與 藥 材 之 葉 不 同
 其 性 質 則 與 藥 材 之 葉 亦 不 同
 其 功 用 則 與 藥 材 之 葉 亦 不 同
 其 藥 效 則 與 藥 材 之 葉 亦 不 同
 其 藥 用 則 與 藥 材 之 葉 亦 不 同
 其 藥 效 則 與 藥 材 之 葉 亦 不 同
 其 藥 用 則 與 藥 材 之 葉 亦 不 同



魚獸鳥之之部部

喜多川歌磨筆

宿屋飯盛撰

右近日出極佳題板元正公行書
之方在能也無在歌以書詠之
極元法在元正公

天明戊申正月

通油町耕春堂

爲屋重三郎

